

令和元年度病虫害発生予察予報第3号（6月）

令和元年6月6日
高知県病虫害防除所

《予報の概要》

| 作物名 | 病虫害名 | 予想発生量※ |
|--------------|---|---|
| 水稲（早期稲） | いもち病 ツマグロヨコバイ セジロウンカ ヒメトビウンカ | 平年並（県下全域） <u>多（西）、やや多（中央）、少（東、中西）</u> 平年並（県下全域） 平年並（県下全域） |
| 水稲（普通期稲） | イネミズゾウムシ スクミリンゴガイ | <u>やや多（県下全域）</u> <u>多（県下全域）</u> |
| かんきつ類（温州みかん） | そうか病 黒点病 ミカンハダニ カメムシ類 | <u>多（中央）</u> <u>多（中央）</u> <u>やや多（中央）</u> <u>多（中央）</u> |
| かんきつ類（中晩柑類） | そうか病 黒点病 かいよう病 ミカンハダニ カメムシ類 | <u>やや多（西）、やや少（東）、少（中央、中西）</u> <u>多（中央、中西）、やや少（東、西）</u> <u>多（中西）、少（東、中央、西）</u> <u>多（中央、中西）、少（東、西）</u> <u>多（県下全域）</u> |

※ （ ）内の表記 東：県東部、中央：県中央部、中西：県中西部、西：県西部

I 気象予報（高松地方气象台 5 月 30 日発表）

6 月 1 日から 6 月 30 日までの天候見通し

<特に注意を要する事項>

期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。期間のはじめは小雨の状態が続く所がある見込みです。

<予想される向こう 1 か月の天候>

平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

向こう 1 ヶ月の平均気温は、高い確率が 70% です。

週別の気温は、1 週目は高い確率 70% です。2 週目は高い確率 70% です。3～4 週目は、平年並または高い確率ともに 40% です。

<向こう 1 か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%) >

| 期間 | 対象地域 | 要素 | 低い(少ない) | | 平年並 | 高い(多い) |
|------|------|------|---------|----|-----|--------|
| 1 ヶ月 | 四国地方 | 気温 | 10 | 20 | 70 | |
| | | 降水量 | 30 | | 40 | 30 |
| | | 日照時間 | 30 | | 40 | 30 |

<気温経過の各階級の確率 (%) >

| 期間 | 対象地域 | 低い | | 平年並 | 高い |
|--------|------|----|----|-----|----|
| 1 週目 | 四国地方 | 10 | 20 | 70 | |
| 2 週目 | | 10 | 20 | 70 | |
| 3～4 週目 | | 20 | 40 | | 40 |

<予報の対象期間>

1 ヶ月：6 月 1 日（土）～6 月 30 日（日）

1 週目：6 月 1 日（土）～6 月 7 日（金）

2 週目：6 月 8 日（土）～6 月 14 日（金）

3～4 週目：6 月 15 日（土）～6 月 28 日（金）

II 病虫害発生予想

1 早期稲の病虫害

1) いもち病（葉いもち）

発生量：平年並（県下全域）

根 拠

(1) 5 月の調査では、県西部でわずかに発生が確認されただけであったが、6 月の降水量は平年並で曇りや雨の日が多いと予想されていることから、平年並の発生になると考えられる。

(2) BLASTAM（葉いもち発生予測システム）では 5 月 19 日に県西部、5 月 20 日に県東部、5 月 28 日に県西部、6 月 3 日には県中央部と西部で感染好適日が確認されている（BLASTAMによる葉いもち発生予測判定状況は病虫害防除所HPを参照）。

対 策

- (1) 気象や発生状況に注意し、進行型病斑を認めたら速やかに薬剤防除を行う。
- (2) QoI剤耐性菌発生を防止するため、これらの剤の使用回数は作期を通じて1回とする。
- (3) 窒素過多は発病を助長するので、穂肥等の施用は生育状況を見ながら適切に行う。

2) ツマグロヨコバイ

発生量：多（西部）、やや多（中央）、少（東部、中西部）

根 拠

- (1) 5月の調査では、県西部で平年よりも発生が多く、中央部で平年並、その他の地域では発生が見られなかった。6月の気温は平年よりも高めと予想されているため、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 近年、本虫の媒介する萎縮病の発生はほとんどなく、低密度時は薬剤散布は必要ないが、出穂期から登熟期にかけて密度が高くなると、実入りが悪化することがあるので、その場合は他の病害虫とあわせて防除を行う。

3) セジロウンカ

発生量：平年並（県下全域）

根 拠

- (1) 5月の調査では発生は確認されていないが、梅雨入り後、平年並に飛来すると考えられる。

対 策

- (1) セジロウンカはトビイロウンカ、コブノメイガ同様、中国大陸等から飛来する害虫であるため、ほ場内での発生に注意する。多飛来等で、成虫数が株当たり5頭以上になったときは薬剤防除を行う。

4) ヒメトビウンカ

発生量：平年並（県下全域）

根 拠

- (1) 5月の調査では発生が確認されていないものの、暖冬であったことから、越冬量は多かったものと考えられ、今後、発生が増加してくるものと考えられる。

対 策

- (1) 本県では、本虫の媒介する縞葉枯病がほとんど発生していないため本虫を対象にした薬剤散布の必要性は低いですが、発生が多い場合は他の病害虫と同時防除を行う。

2 普通期稲の病害虫

1) イネミズゾウムシ

発生量：やや多（県下全域）

根 拠

- (1) 暖冬であったことから、越冬量は多いと見込まれる。6月の気温は平年よりも高めと予想されており、移植後すぐに本田への侵入が見られるものと考えられる。

対 策

(1)箱処理剤を施用していないほ場で、発生が多い場合は本田防除を行う。

2) スクミリンゴガイ

発生量：多（県下全域）

根 拠

(1)暖冬であったことから、冬期の死亡率は低く、既発ほ場での越冬量が多いと考えられる。

(2)5月の早期稲の巡回調査では、県下全域で発生面積が平年の2.6倍と多く、発生程度も高かった。

(3)6月の気温は高めと予想されているため、移植後すぐに活動が活発になると考えられる。

対 策

(1)発生水田では田植後2～3週間はできるだけ浅水管理を行うとともに、高密度の場合は薬剤防除を行う。

3 カンキツ（温州みかん）の病害虫

1) そうか病

発生量：多（中央部）

根 拠

(1)5月の調査では発生程度の高いほ場は見られなかったものの、発生面積は平年よりも多かった。

(2)6月の降水量は平年並で、曇雨天の日が多いと予想されていることから、発生は平年よりも多くなると考えられる。

対 策

(1)幼木や発生の多い園地では黒点病との防除を兼ねて、予防的な薬剤散布により感染を防ぐ。また、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

発生量：多（中央部）

根 拠

(1)5月の調査では発生程度の高いほ場は見られなかったものの、発生面積は平年よりも多かった。

(2)6月の降水量は平年並で、曇雨天の日が多いと予想されていることから、発生は平年よりも多くなると考えられる。

対 策

(1)密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ少なくなるように管理する。

(2)前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

3) ミカンハダニ

発生量：やや多（中央部）

根 拠

- (1) 5月の調査では平年並の発生であった。
- (2) 6月の気温は平年よりも高めと予想されているため、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 薬剤抵抗性発達を回避するため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

4) カメモシ類

発生量：多（中央部）

根 拠

- (1) 5月の調査では、一部のほ場での発生が見られている。
- (2) 昨秋の発生が多く、暖冬により越冬量も多かったと推定される。また、5月のフェロモントラップへの誘殺数は県下的に多くなっている。

対 策

- (1) 果樹園周辺の雑木林から飛来してくるので、ほ場内をよく観察して、飛来を確認したら防除を行う。

4 カンキツ（中晩柑類）の病害虫

1) そうか病

発生量：やや多（西部）、やや少（東部）、少（中央部、中西部）

根 拠

- (1) 5月の調査では、県西部で平年並、東部でわずかに発生を認めたが、その他の地域では発生が見られなかった。
- (2) 6月の降水量は平年並で、曇雨天の日が多いと予想されているため、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 幼木や発生の多い園地では黒点病との防除を兼ねて、予防的な薬剤散布により感染を防ぐ。また、防風垣などの整枝を行い、園地の通風をよくする。

2) 黒点病

発生量：多（中央部、中西部）、やや少（東部、西部）

根 拠

- (1) 5月の調査では県中央部と中西部で発生面積が平年よりも多く、発生程度も高かった。一方、東部と西部では発生が見られなかった。
- (2) 6月の降水量は平年並で、曇雨天の日が多いと予想されているため、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

- (1) 密植園での間伐、老木の更新、防風林の整備等により、枯枝の発生ができるだけ

少なくなるように管理する。

(2) 前回の防除から25日以上経過するか、累積雨量が250mmを超えると薬剤散布を行う。

3) かいよう病

発生量：多（中西部）、少（東部、中央部、西部）

根 拠

(1) 5月の調査では、県中西部で平年よりも発生が多かったが、その他の地域では発生は見られなかった。

(2) 6月の降水量は平年並で、曇雨天の日が多いと予想されているため、既発ほ場を中心に発生が増加し、その他のほ場でも発生が見られ始めると考えられる。

対 策

(1) 銅剤等の散布による予防に努めるとともに、発病がみられる夏秋梢は剪定、除去する。

4) ミカンハダニ

発生量：多（中央部、中西部）、少（東部、西部）

根 拠

(1) 5月の調査では、県中央部、中西部で発生が見られ、両地域とも発生面積は平年に比べ多かった。

(2) 6月の気温は平年に比べ高めと予想されているため、既発ほ場を中心に発生が増加すると考えられる。

対 策

(1) 薬剤抵抗性発達を回避するため、異なった系統の薬剤によるローテーション防除を心がける。

5) カメモシ類

発生量：多（県下全域）

根 拠

(1) 5月の調査では、一部のほ場で発生が見られている。

(2) 昨秋の発生が多く、暖冬により越冬量も多かったと推定される。また、5月のフェロモントラップへの誘殺数は県下的に多くなっている。

対 策

(1) 果樹園周辺の雑木林から飛来してくるので、ほ場内をよく観察して、飛来を確認したら防除を行う。

農作物の病害虫防除のための情報です。お気軽にご利用ください。

病害虫防除所ホームページ（こうち農業ネット）

①病害虫発生予察月報、病害虫発生予察予報

②病害虫発生予察注意報、病害虫発生予察警報、病害虫発生予察特殊報

③病害虫発生予察技術資料

④新しく問題となっている病害虫 etc.

